

“気になる”平成 28 年度のお金の使い道を見てみよう！

歳出を町民一人あたりでみると  
**総額 586,386 円 (+29,763 円)**

※町民一人あたりの金額は、平成 29 年 3 月 31 日現在の町の住民基本台帳人口 1 万 4,226 人で割ったものです。

区分	金額	一人あたり金額(前年比)
民生費	21億1,590万円	148,735円(+12,552円)
衛生費	5億2,575万円	36,957円(▲6,241円)
農林水産業費	5億4,960万円	38,634円(+4,611円)
商工費	2億3,900万円	16,800円(▲1,103円)

しらかた元気っ子事業による医療費支援の対象年齢を高校3年生年齢まで拡充するなど、子育て環境の充実・支援を図りました。

健康づくりへの意識向上や子育て支援に向けて、新たに子どもの健康づくり健診事業やしらかた健紅マイレージ事業に取り組みました。

基幹的産業である農業支援のほか、森林整備と多面的機能の保全に向けた森林境界明確化事業や木材乾燥施設整備の支援に取り組みました。

企業立地促進や受注拡大、町内の消費拡大、観光振興に向けた取り組みに加え、「日本の紅（あか）をつくる町」連携推進本部を中心に、紅花生産向上に向けた取り組みなどを行いました。

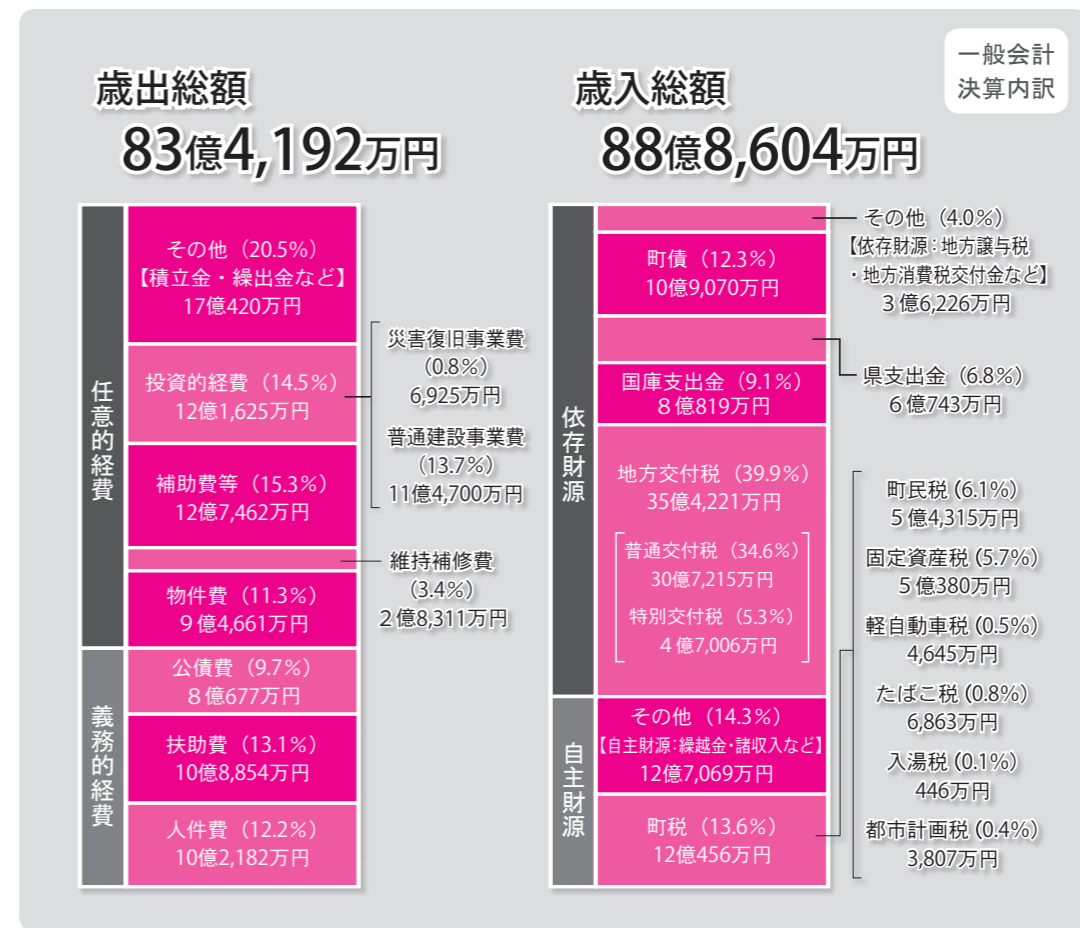
土木費	7億5,530万円	53,093円(+5,008円)
教育費	10億1,006万円	71,001円(+4,169円)
公債費	8億677万円	56,711円(+3,411円)
その他	23億3,954万円	164,455円(+7,356円)

重要課題である主要地方道長井白鷹線「荒砥橋工区」の整備促進や町道の改良・維持工事、住宅のリフォームに対する支援、すまいる住まい！若者定住サポート事業などを実施しました。

荒砥小学校の大規模改修を実施するとともに、新たに新入学生に対する町内で製作されたランドセルの贈呈事業に取り組みました。また、全国高校総体に向け、ソフトボール場・野球場改修を行ったほか、深山観音の屋根改修支援などを実施しました。

建設事業などを行うために借り入れたお金の返済などに使われました。

総務費では、まちづくり複合施設等整備事業や地域おこし協力隊の増員、青少年国際交流事業などを行いました。また、消防費では消防用緊急車両配備などを実施しました。これらのほか、議会費、労働費、災害復旧費に使われました。



平成28年度に実施した  
**重要取り組み(抜粋)**

●特別会計・事業会計 (※万円未満は端数調整あり)

会計名	歳入	歳出
十王財産区特別会計	114万円	19万円
下水道特別会計	5億7,368万円	5億5,790万円
国民健康保険特別会計	19億4,033万円	18億4,591万円
農業集落排水特別会計	1億4,723万円	1億4,026万円
介護保険特別会計	16億1,727万円	15億7,039万円
後期高齢者医療特別会計	1億3,865万円	1億3,749万円
水道事業会計<収益的収支>	3億826万円	2億6,716万円
水道事業会計<資本的収支>	1,325万円	1億3,041万円
病院事業会計<収益的収支>	11億1,834万円	11億4,183万円
病院事業会計<資本的収支>	99万円	8,839万円
訪問看護ステーション事業会計<収益的収支>	2,991万円	3,232万円
訪問看護ステーション事業会計<資本的収支>	0万円	0万円
合計 (一般会計を含む)	147億7,509万円	142億5,417万円

2億3267万円の減となりました。そのほか、今後見込まれる財政需要等に備え、公共施設整備基金に3億5千万円の元金積立てを行いました。

基金(預貯金)残高の増加など財政の健全化に努めていますが、投資的事業の増加により地方債(借入金)残高が増加し、また、歳入全体における自主財源の割合は依然低く、交付税や補助金などへの依存度が高い状況にあります。特に、地方交付税が歳入全体の約4割を占めており、自主財源の確保が大きな課題です。

本町では、安心・安全な暮らしの確保に向けて、引き続き計画的な行政改革の推進に努め、持続可能で健全な財政運営を基本とした取り組みを行い、より良いまちづくりを進めていきます。

平成28年度は、製造業を中心に緩やかな回復基調にある経済情勢の中で、町民の皆様のご生活環境の向上を中心と考え、地方創生に向けた各種の取り組みを加速させて、共創のまちづくりによる施策展開を確実に実施してきました。

一般会計における決算は、前年度に比べ歳入総額で1666万円の(0.2%)下回ったものの、歳出総額で2億3248万円(2.9%)上回る結果となり、収支差引は5億4412万円となりました。

歳入については、町が自主的に収入することができ、町税などの**自主財源**は、税収入では3738万円の増となったものの、財産売却収入の減などにより、前年度の減などにより、前年度に比べ約555万円の減少となりました。また、国や県からの補助金や地方交付税、地方譲与税、町債(借入金)などの**依存財源**も、約1111万円の減少となりました。

歳出については、その性質別に見ると、支出が義務づけられ任意に削減できない**義務的経費**は、扶助費(住民福祉経費)が約2873万円、公債費(借入金返済)が約3025万円の増加となりました。義務的経費以外、**任意的経費**では、普通建設事業費(公共・公用施設の整備経費)が、荒砥小学校大規模改修事業の増などにより約7198万円の増、災害復旧事業費が、豪雨災害復旧事業の減少により約

知ってほしい!!  
**町の財政状況**

平成28年度  
**決算報告**

